

平成29・30年度 役員からのメッセージ

第46回定時総会にて、平成29・30年度役員(理事23名・監事3名)が選出されました。新役員からのメッセージを掲載しています。



役員集合写真(2017年6月撮影)

平成29年度および30年度の2年間更に会長を務めることになりました。我々にとって、この2年間の持つ意味は非常に重いものがあります。平成30年度の医療介護の同時改定は将来に向けた道標になるようなものが想像されます。この同時改定をいかに乗り切るかは、あらゆる職能団体が考えていることです。当然ながら、激しい競争が展開されていますし、更にヒートアップすることは間違いのないことです。本会としても担当部署の強化を図り、適時適切に対応していきます。本会は政治力等では他団体にかないませんので、徹底したエビデンス中心主義を貫きます。これを有効にするためには、職能的活動と学術活動の絶対的融合を図ることと主張できる場面を増やすことが不可欠です。

課題として取り組みを強めていき、理学療法士の処遇改善を目指します。

以上のように理学療法士は「量の時代」から「質の時代」に急激に変化しています。この時代変化に対して、我々は様々な点から総点検を行い、それぞれの点に関するの方針を固め、そして主張していかねばなりません。今後の望ましい1学年定員数、学校教育、卒後研修システム、急性期理学療法、回復期理学療法、生活期理学療法、等々、課題は尽きません。専門職としての理学療法士を社会的に確立していきます。

これらの諸課題を解決するためには「力」が必要です。エビデンスの力、臨床的実力による力、組織の大ききによる力、組織の団結力による力、これら全てを揃えねばなりません。そのなかで会員諸氏にお願いしたいことは組織率の向上です。現在、医療系団体で組織率が70%を超えているのはおそらく本会だけだと思います。会員数および組織率を上げることが我々の将来を決定づけることは確実です。会員一人一人のご理解とご協力をお願いいたします。

会長



公益社団法人 日本理学療法士協会 会長

半田 一登



内山 靖

名古屋大学大学院
医学系研究科
理学療法学講座

この度、半田会長のもとで11年目となる副会長を拝命いたしました。会長を補佐する業務の全体を担いますが、なかでも国際展開と理学療法士の需給を推進いたします。根幹にあるキーワードは、**学術と職能の融合と相乗効果の具現化**です。

国が掲げる重要な政策の一つに、**アジア健康構想**、**自立支援**が挙げられます。未来投資戦略2017においても、**健康寿命を延伸**するための幅広い取り組みが求められ、**理学療法の可能性は大きく広がっています**。公的保険下での理学療法を含めた働き方と、社会への理学療法適用を創造的に捉えることが大切であると思います。

優秀で多様なキャリアパスを描いている会員の夢と希望に応えられるような協会活動を推進できればと思っております。理学療法士によるビッグデータの集積、医工連携、学会の自立、理学療法評価ならびに治療の標準化、日本学会議との連携などにも関わっていきたく考えています。

会長ならびに他の副会長は、専従もしくは非専従での常勤役員となりました。私自身は非常勤役員であり、教育研究者としての現場での感覚や、より公益性の高みに立った協会運営を一層意識していきたいと存じます。

引き続き、ご協力とご支援をお願い申し上げます。



森本 榮

医療法人社団
輝生会本部

この度、理事への選任さらに協会副会長任命と協会を支える役割をお与えいただき光栄です。更なる努力で課題に立ち向かってまいります。

急速に進む社会保障制度改革に伴う医療・介護現場の変化、地域包括ケアシステムの構築などは都道府県、市町村行政が主役であり、今後の理学療法士の発展には各都道府県士会の活動が重要です。

私は平成25年度より地域包括ケア推進対策本部本部長から士会組織機能強化委員会委員長を務め、推進リーダー制度、管理者ネットワークの構築など士会の組織強化を目指した活動を行ってまいりました。

現在、都道府県士会の理事会に順次参加させていただき、士会役員諸氏のご苦勞を肌で感じております。都道府県の苦勞が無駄にならず、成果を感じ取ることができる支援を考え実行してまいります。

この力は協会の力になり、国民、行政府から期待される理学療法士の姿を見せることに繋がります。これからの2年間会員諸氏の代理者としてこれから課題に取り組み組織の強化を進めてまいります。皆様方のご支援ご協力をお願いいたします。



斉藤 秀之

(公社)
茨城県理学療法士会

この度、平成29・30年度理事にご承認いただき御礼申し上げます。4期目理事として皆様の負担に配慮よう精進して参ります。今期も引き続き副会長を拝命し、専務理事の職務を継続することになりました。専務理事としては2期目となり、1期目の経験を踏まえてより適正な事業計画・実施に取り組み所存です。一方で、現実の世の中を俯瞰すると、理学療法のある方を大きく転換しなければいけない時期が遂にやってきたと感じます。そのためには、**理学療法という基盤が小さくまとまることのないよう、大きく展開していく**ことを会員個々のみならず、都道府県士会にも求めていきたいと思っております。制度のなかでの仕事はしっかりと行い、更にその効率を求め、新たな課題やニーズに対して先駆的に対応する、その先に新たな働き方があり、生活としても成り立つモデルを構築していく。世のため、人のため、自分のためということですが、理学療法士全員が一致団結し、小異を捨てて大同団結し、この荒波に立ち向かっていく覚悟を決める時局です。皆様のご支援・ご理解・ご協力を仰ぐことも多くあると思います。何卒よろしくお願ひ申し上げます。



網本 和
首都大学東京
人間健康科学研究科

学会運営審議会担当として2期目を迎えることとなりました。これまで分科学会、部門、事務局のご支援によって、活発な学術活動が展開できたことに感謝します。周知のように連合学術集会は52回大会でいったん終了となりました。今後、理学療法士の専門性をどのように追求し社会への還元を実践していくかを課題として、学術大会のあり方、学会の自律性等について検討し、これまで以上に皆様のご協力をいただきながら微力を尽くしていきます。



黒澤 和生
国際医療福祉大学
小田原保健医療学部

この度、臨床実習教育の手引き作成執行委員会委員長(任期2年)並びに学会運営審議員を仰せつかりました常務理事の黒澤和生です。平成27・28年度は、人材育成対策本部において、ポスト高齢社会(少子社会)、2025年以降の理学療法モデル等の答申書を提出いたしました。
理事4期目を迎え、理学療法士の人材育成を含む様々な対策構築に、会員諸氏のご意見を伺いながら、精いっぱい頑張ろうと思っております。ご指導ご鞭撻の程、よろしくお願ひ申し上げます。



植松 光俊
株式会社
リハステージ

国が求める地域包括ケアシステム構築は、私たち理学療法士にとって「生き残り」を賭けた厳しい環境変化となります。この環境変化や外部評価にも耐えうる会員の職能的自立性が担保できる新しい生涯学習システムの再構築が必要です。ご協力のほどよろしくお願ひします。



高橋 哲也
学部科
大学学
保健法
工保療
京療学
東医理

標準理学療法研究審査執行委員会委員長を拝命しました。標準的な理学療法を本会から発信するためには、エビデンスの高い大規模調査研究が必要です。研究計画を慎重・公正に審査し、会員に益多い結果を出したいと思っております。会員各位のご協力をよろしくお願ひいたします。



佐々木嘉光
(公社)日本理学療法士会
協

私は、どこに住んでも、誰もが一定レベル以上の理学療法を受けられるような国づくりをしたいと思います。現在は大量の経験の浅い理学療法士と不足する中間管理者が現場を支える苦しい状況です。将来を担う若者を熟達化させるための、抜本的な現場支援を進めて参ります。



吉井 智晴
東京医療学院大学

理学療法ハンドブック作成、チーム医療推進協議会を担当させていただきました。一般国民の理学療法士の認知度は、名称として9割、業務内容として5割程度。エビデンスに基づいた知見を分かりやすく広め、社会的に理学療法、理学療法士の理解を深めて行く事に尽力致します。



梶村 政司
中電病院(株)中電病院
リハビリテーション科

「スポーツ支援推進執行委員会」(旧オリパラ対策本部の発展系)の委員長を拝命されました。今期の対象は、トツプアスリートや障がい者スポーツに限らず、一般スポーツ愛好家や高齢者に、理学療法士が行う「生涯スポーツ」を提案します。



伊藤 克浩
梨ン院
山リ病
ハビリテーショ

2期4年間役員理事を務めた後1期お休みして、この度2年ぶりに役員理事に承認いただきました。心機一転頑張りたいと思います。会員制度検討委員会委員として、賛助会員制度の取り扱い等会員制度について幅広く検討したいと思っております。ご支援の程よろしくお願ひ致します。



白石 浩
今津赤十字病院

地域包括ケア時代に市町村や地域住民から信頼され頼られる理学療法士を育成すること、法整備を通して身分や職域を拡大すること等、取り組むべき課題は山積みです。理学療法士として誇りを持って仕事ができる環境をつくるために精一杯尽力させていただきます。



谷口 千明
放射線第一病院

この度理事3期目を迎えさせていただき、担当業務としては「会員制度検討委員会」委員長を拝命いたしました。会員制度について多方面から検討し、より良い会員制度となるよう、精力的に進めてまいりたいと思っております。どうぞ、よろしく願っています。



大工谷 新一
エムスリードクターサポート株式会社

今期は、選挙制度の検討を中心に担当させていただきます。公平、公正で、かつ信を置く候補者を選出するのに適した選挙制度を提案するというミッションを果たすために、様々な調査やヒアリングに基づいて検討する所存です。引き続き、よろしく願っています。



知脇 希
帝京平成大学健康メデイカル学部

この度、訪問リハビリテーション振興財団特任理事、学芸審議員を拝命しました。復興特区は延長となりましたが、今後の事業継続に向けて全力を尽くしていく所存です。また、学会の更なる発展に寄与できるよう、努力してまいります。よろしく願っています。



高橋 仁美
市立秋田総合病院

学会運営審議員、災害時支援システム検討委員を拝命いたしました。患者さんが主語となる医療のため、質の高い理学療法を提供できる人材育成と環境整備の必要性を感じています。微力ながら、次世代のために邁進してまいります。ご協力、ご支援、よろしく願っています。



中川 法一
人 人 療 療
増 原 クリニッ ク

生涯学習制度の見直しと臨床実習の手引の改訂を行って参りました。もう1年これらの業務も行つて参りますが、新たに課題解決型高度医療人材育成検討委員会長に任命されました。何れも私たちの骨幹である教育に与えられた課題であり、引き続き尽力したいと思います。



田中 昌史
北海道千歳リハビリテーション学院

この度は理事に選任いただき、誠にありがとうございます。職能団体の最終目的は、構成員(会員)の職務・職域および待遇を守ることです。そのために必要となる質の高い理学療法による社会貢献の確立と併せ、好循環となる体制構築に尽力してまいります。



中前 和則
人 人 社 社
琴 浦 リハビ
テ ー シ ョ ン セ ン タ ー

人間本来無能力、己に徹して人のために生きる。理学療法を通じて行う社会貢献こそが、私たち理学療法士の使命であり義務です。協会は、学術・公益・職能のバランスの取れた三位一体の発展が必要不可欠です。連盟副会長、和歌山県士会長の立場からも業界発展に努めてまいります。



藤澤 宏幸
東北文化学園大学

この度、再び理事として活動する機会を頂戴しました。会員皆様の声を大切にしながら、理事会では積極的に各業務に対して意見を述べ、与えられた仕事に対して責任をもって臨みたいと思っております。ご指導、ご鞭撻のほど、宜しくお願い申し上げます。



辺土名 厚
清泉監査法人

公認会計士で外部監事の辺土名厚です。公益法人の会計や制度関係を専門分野としています。監事は法人運営に法令・定款違反がないか、決算書が適正に作成されているかを重点的に確認します。監事として協会が日本を代表する公益社団法人になれるよう、尽力致します。



松井 一人
株式会社ほっとリハビリシステムズ

理事4期目となり重責に身の引き締まる思いです。理学療法士を取り巻く環境は、決して安寧な状況ではないが故に、一理事として攻めの政策を提案させていただき、実行できるよう、尽力します。常に明るく、前向きに頑張らせていただきます。



太田 誠
校リハビリテーション学院
専門福祉学
日本福祉大学

我々理学療法士にとって山積する外向き・内向きの課題に対応していくためには、会員が一致団結し努力していかなければなりません。微力ではありますが、監事という立場から本会の適切な事業運営のために尽力させていただきますので、宜しくお願い申し上げます。



山根 一人
株式会社アール・ケア

身分と職域の拡大をかけた同時改定。これに帆を進める半田丸を、乗組員としてどう応援していくのか。焦点はここに尽きると思えます。「夢なき者に成功なし」の志で挑みます。



長澤 弘
湘南医療大学
保健医療学部

理事会推薦により先の総会においてご承認いただき監事に就任いたしました。理学療法士を取り巻く状況は近年益々厳しくなり、社会の変化や、国民から求められる理学療法士の質的担保など、様々な課題があります。本会の果たすべき役割を意識して尽力してまいります。

平成27・28年度 日本理学療法士協会役員 (敬称略)

- 理事 半田 一登 (会長)、小川 克巳 (副会長)、内山 靖 (副会長)、斉藤 秀之 (副会長)
網本 和、植松 光俊、山根 一人、佐々木嘉光、森本 榮、荒木 茂、板場 英行、
梶村 政司、黒澤 和生、大工谷新一、高橋 哲也、谷口 千明、知脇 希、中川 法一、
中前 和則、間瀬 教史、松井 一人、山本 尚司、吉井 智晴
- 監事 西村 敦、辺土名 厚、太田 誠

2年間にわたり、本会運営へのご尽力をいただき誠にありがとうございました。